第3次中期経営計画説明会

丸一鋼管株式会社

社　長　　鈴　木　博　之

目　　次

Ⅰ　第2次中期経営計画の成果と反省　・・・　P.　2
Ⅱ　第3次中期経営計画の基本的考え方　・・・　P.　9
Ⅲ　第3次中期経営計画目標　・・・　P. 12
Ⅳ　第3次中期経営計画の課題と主要施策　・・・　P. 19

２０１２年３月２８日

Ⅰ 第2次中期経営計画の成果と反省

Ⅰ－1　総括

①2008年のﾘｰﾏﾝｼｮｯｸ後の国内外の経済は立ち直りが遅く、特に日本国内の建築市場の長期不況により当社主力の建材用鋼管の販売不振が続く。

②自動車関連は好調に推移していたが、2011年3月の震災によるｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝの崩壊による大幅な生産減少の影響で2011年度前半は大きく落ち込む。一方、震災の復興需要の本格化にはなお時間を要することから、国内の生産水準はﾋﾟｰｸ時の60-70%で推移。

③海外は、米国のﾘｰﾏﾝｼｮｯｸからの立ち直りが遅く、引き続き建築関連の販売水準は低調。ｱｼﾞｱ地域は中国を中心に好調を維持していたが、2011年後半のEU経済危機やタイの洪水の影響により、各国とも経済成長ｽﾋﾟｰﾄﾞが鈍化している。
また、対米ﾄﾞﾙ為替ﾚｰﾄの軟化により、各現法とも為替ﾘｽｸが拡大している。

④以上の状況から、主要施策はほぼ当初の計画通り実施できたが、
売上高・利益目標は大きく未達成となった。

Ⅰ-2　目標達成状況

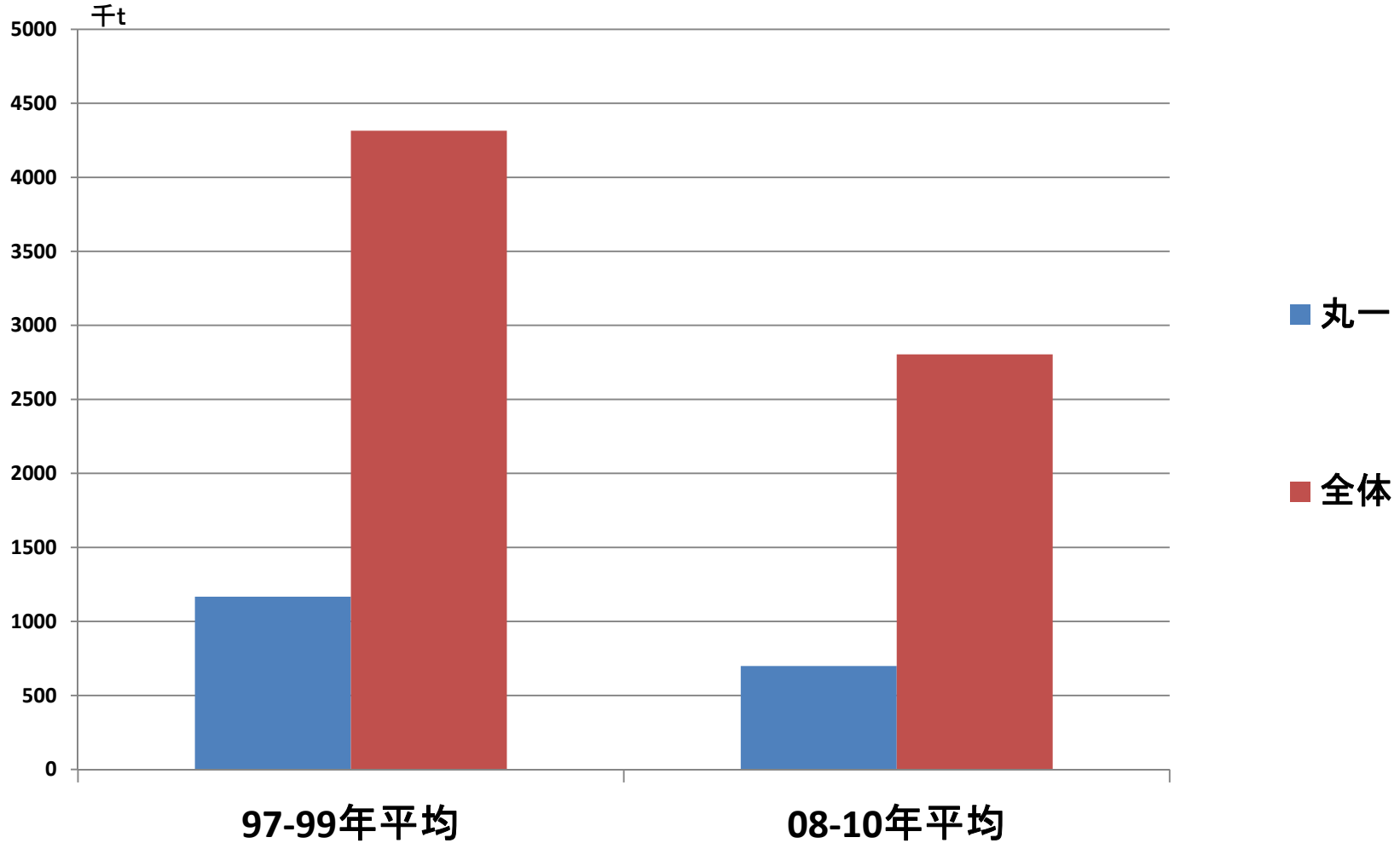
（億円）

第2次計画 実績・見込	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 見込(*)		2011年度 目標
売上高	1,024	1,158	1,203		1,600
営業利益	106	165	148		220
経常利益	121	186	170		260
純利益	74	102	59		150
1株当たり純利益 EPS(円)	84.6	117.7	68.9		170
株主資本利益率ROE(%)	3.93	5.02	2.81		8.00

(*)は2012/2/7決算発表時の見込み数字

Ⅰ-3 普通鋼電縫鋼管の生産量推移

（鉄鋼連盟統計）



Ⅰ-4 目標未達要因

（億円）

	2011年度			未達理由
	当初計画	実績	達成率	
売上高	1,600	1,203	75%	当初想定為替レート：90円
国内	1,200	937	78%	建設関連の長期不振、地震の影響
米国	200	127	64%	ﾘｰﾏﾝｼｮｯｸからの回復遅れ。API事業計画の見直し
ﾍﾞﾄﾅﾑ	200	139	70%	16ｲﾝﾁ、ﾊﾉｲの立上げ遅れ、ﾍﾞﾄﾅﾑ経済の不振、ﾀｲの洪水
営業利益	220	148	57%	販売量の低迷による収益性の低下
国内	200	143	72%	
米国	10	8	80%	
ﾍﾞﾄﾅﾑ	10	-2	-	D-Bar生産停止、16ｲﾝﾁﾐﾙ、ﾊﾉｲの償却負担
経常利益	260	170	65%	
国内	243	162	67%	
米国	10	8	80%	
ﾍﾞﾄﾅﾑ等	7	-7	-	為替差損：09年：0.1億円、10年：2.7億円、11年：2.7億円
純利益	160	59	37%	
国内	150	62	41%	有価証券特損：38億円計上
米国	5	3	60%	
ﾍﾞﾄﾅﾑ等	5	-6	-	

Ⅰ-5 主要施策の実施状況(その①)

主要施策	成果
1)国内事業の更なる効率化推進	東京第2工場:機械構造用ｽﾃﾝﾚｽ鋼管ﾐﾙ増設 岩手北上:自動車用鋼管切断工場建設決定(2012/8完成予定) 堺特品工場:増設(2011/11完成) 丸一鋼販:北関東/営業所、南港ﾊﾟｲﾌﾟｾﾝﾀｰ、広島営業所開設 ｱﾙﾌｧﾒﾀﾙ:連結子会社化
2)海外事業の充実と拡大 ①ﾍﾞﾄﾅﾑ ②中国 ③北米	16ｲﾝﾁﾐﾙ完成、API/JIS取得、建築用鋼管ｾﾐﾅｰ開催、ﾊﾉｲ工場稼働 第2CGL/CCLの建設着工(2013/4完成予定) 持分法子会社化(2009/4)、天津工場稼働(2011/3)、 武漢工場完成(2012/3) Leavitt:12ｲﾝﾁﾐﾙの改造、5ｲﾝﾁﾐﾙの更新、2ｲﾝﾁﾐﾙ・0.5ｲﾝﾁﾐﾙの導入等による生産効率化と自動車及びｴﾈﾙｷﾞｰ分野への新規進出
3)新規事業分野への積極的展開	ｲﾝﾄﾞ/KUMA社買収によるｽﾃﾝﾚｽ鋼管分野への進出 ﾒｷｼｺでの自動車用鋼管事業への進出(2012/12完成予定) ﾍﾞﾄﾅﾑ/J-Spiral社への参加によるSpiral鋼管分野への進出

Ⅰ-6 主要施策の実施状況(その②)

主要施策	成果
4)IT化による経営効率の向上と人材育成の強化	海外現地法人での管理ｼｽﾃﾑの導入 中国・ﾍﾞﾄﾅﾑ・豪州への語学研修派遣による若手海外人材の育成 ﾍﾞﾄﾅﾑからの長期研修生の受入れによる現地幹部候補生の育成
5)環境への積極的対応	詫間工場：LPGからLNGへの燃料転換によるCO_2削減 節電要請への積極的対応
6)資本の効率化推進	継続的自己株式取得、配当政策の維持による高い株主還元率の維持 投資有価証券の売却推進
7)災害に強い企業ｸﾞﾙｰﾌﾟの構築	東京第2工場・丸一鋼販/仙台営業所の早期復旧 臨海工場の緊急避難場所の総点検

Ⅱ　第3次中期経営計画の基本的考え方

Ⅱ－1　第3次中期経営計画の基本的な考え方(その①)

①少子高齢化による国内市場の長期的な縮小傾向を踏まえ、
第1-2次中期計画では国内事業の効率化及び海外事業の積極的な展開を実施。

②2011/3に発生した大震災と電力供給不安、急激に進んだ円高等により、
国内市場の低迷は長期化が予想され、自動車産業をはじめ海外への生産ｼﾌﾄが加速。

③国内では鉄鋼産業の国際的な競争力の維持と縮小する国内市場への対応のため、統合や再編が本格化し、各社の生き残りをかけた動きが本格化すると予想される。

Ⅱ-2　第3次中期経営計画の基本的な考え方(その②)

④この様な当社を取り巻く環境を踏まえ、国内では効率的な生産体制の確立を更に進めるとともに、本格化する震災復興需要の捕捉に注力。
海外では積極的な事業展開を一層加速することにより海外での売上高と利益を飛躍的に増やし、ｸﾞﾙｰﾌﾟとしての成長を確保し、国内外での鋼管ﾄｯﾌﾟ企業としての地位を不動のものにしたい。

⑤海外では、成長が見込める二輪車・自動車関連及びｴﾈﾙｷﾞｰ関連の鋼管事業に注力するとともに、ｱｼﾞｱ地区ではｲﾝﾌﾗをはじめとした建築分野への投資も継続する。

⑥海外鋼管事業に対し、“Maruichi”ﾌﾞﾗﾝﾄﾞを活用し、Leavitt及びSUNSCOに対し、“Maruichi”を冠する社名への変更を予定。

Ⅲ　第3次中期経営計画の目標

Ⅲ-1 第3次中期経営計画の目標

（連結ﾍﾞｰｽ）

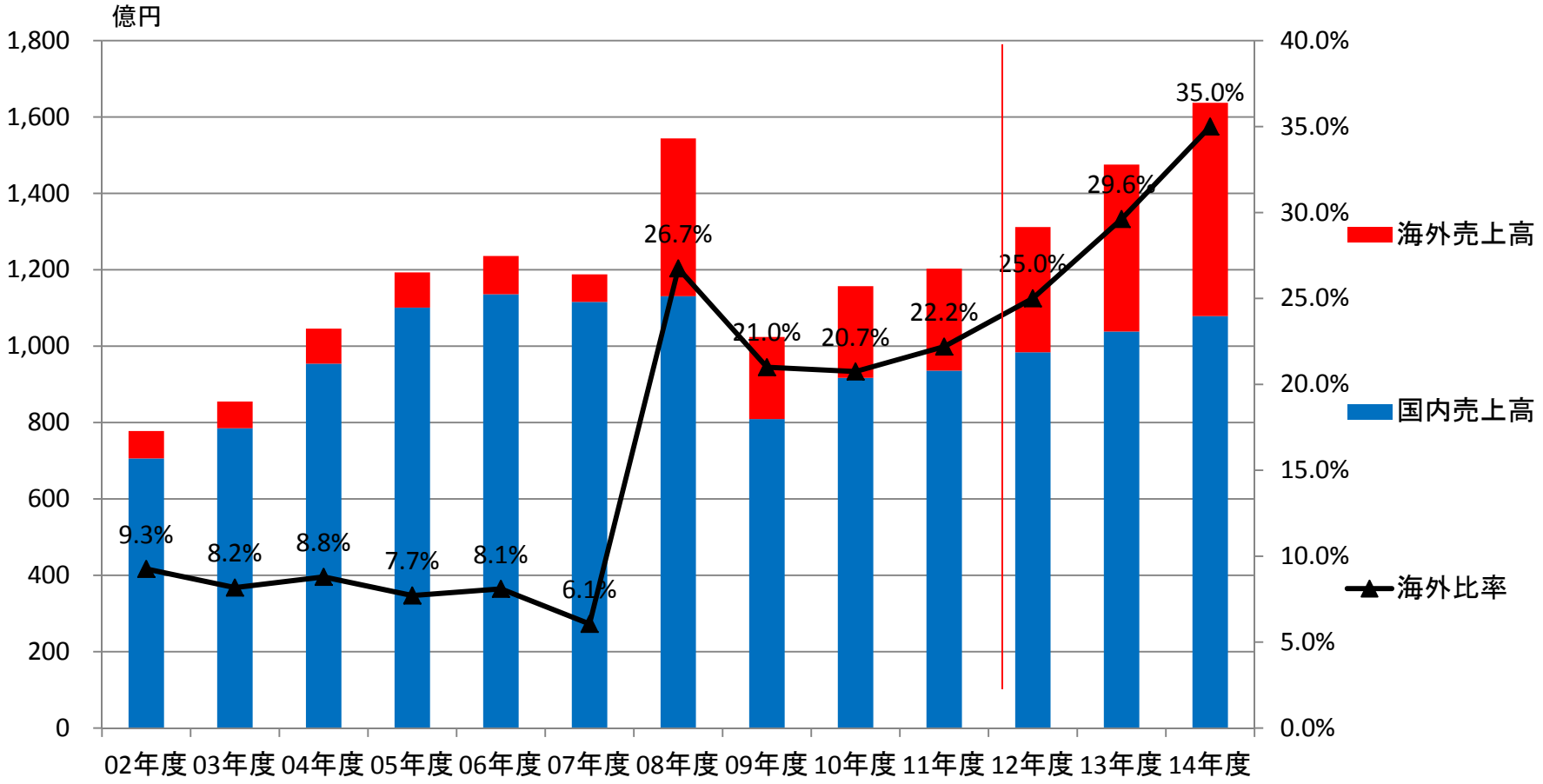
（億円）

第2次計画 実績・見込	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 見込(*)	→	2014年度 目標
売上高	1,024	1,158	1,203		1,600
（同海外比率）	（21.0%）	（20.7%）	（22.2%）		（35.0%）
営業利益	106	165	148		200
（同海外比率）	－	（5.5%）	（3.0%）		（20.0%）
経常利益	121	186	170		220
純利益	74	102	59		120

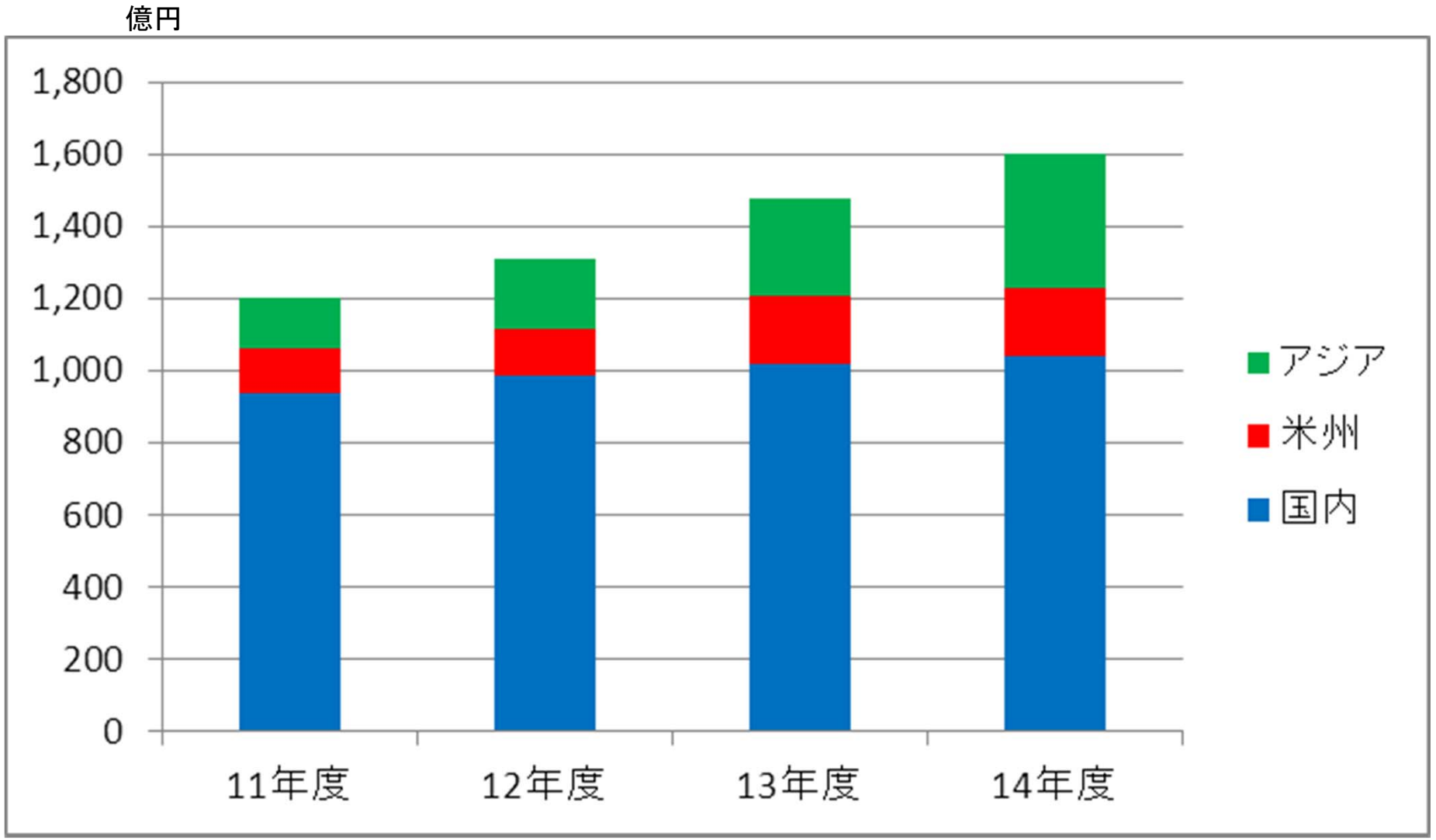
(*)は2012/2/7決算発表時の見込み数字

Ⅲ-2 売上高推移と今後の計画

（連結ﾍﾞｰｽ）

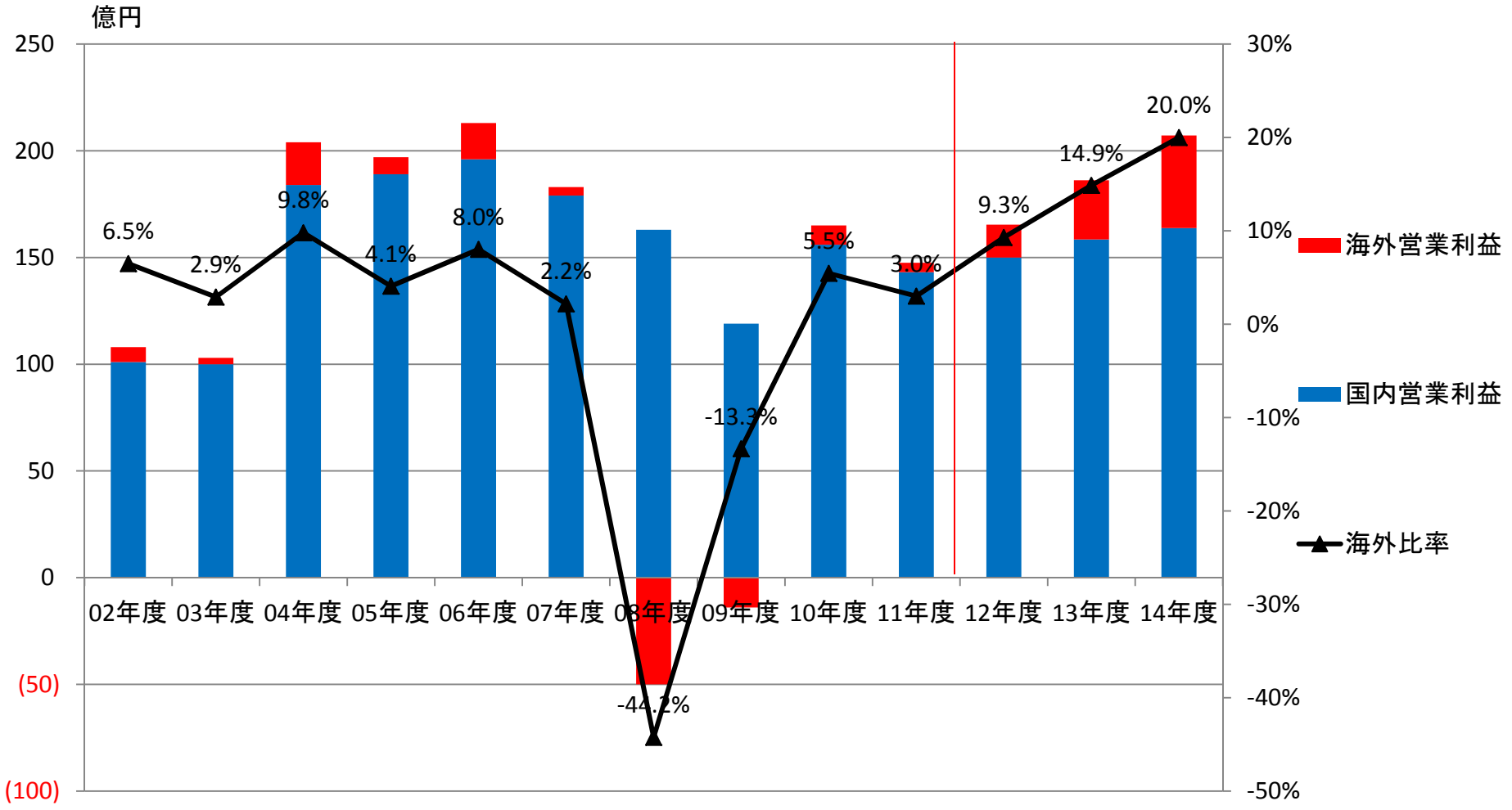


Ⅲ-3 地区別売上高計画

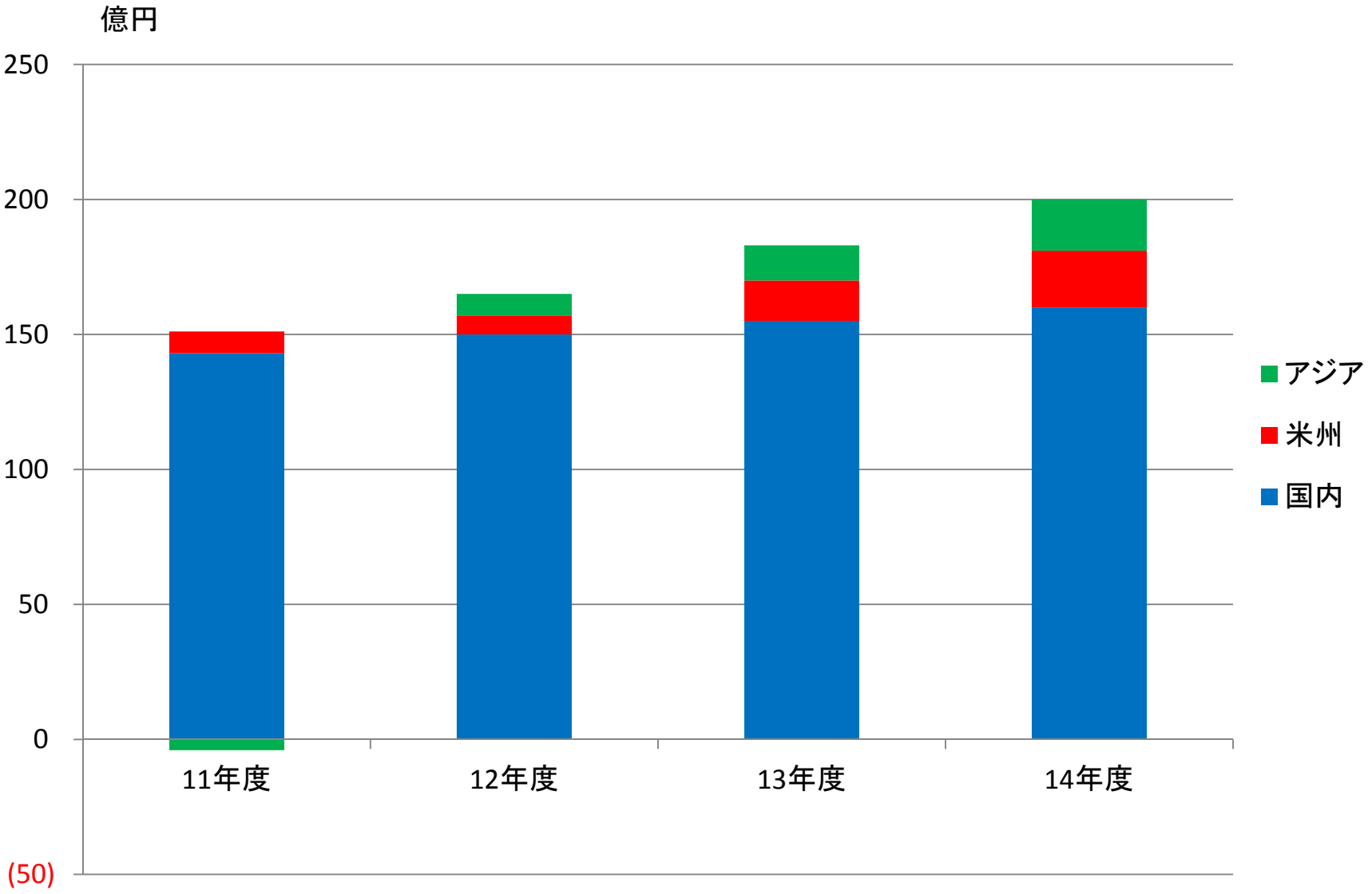

億円
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
11年度
12年度
13年度
14年度
アジア
米州
国内

Ⅲ-3 営業利益推移と今後の計画

（連結ﾍﾞｰｽ）

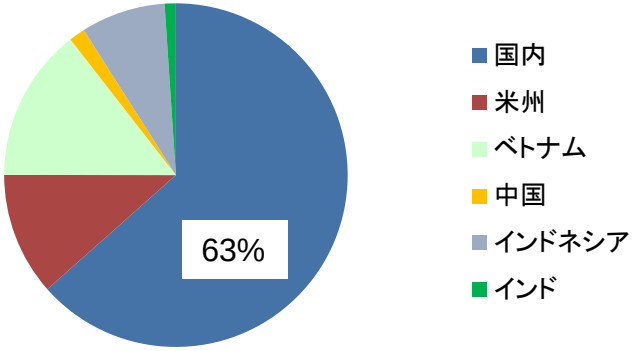


Ⅲ−5 地区別営業利益計画

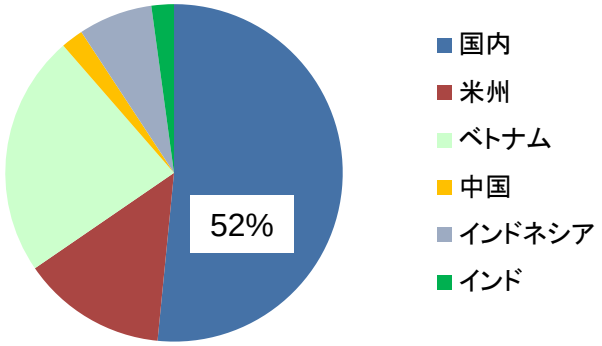


Ⅲ−4 全海外関連会社の売上高・利益シェア（非連結ベース）

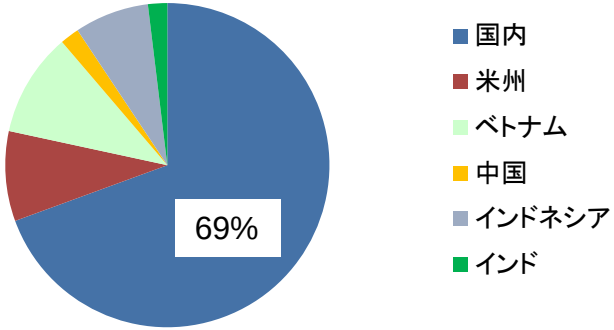
販売数量(2011年度)



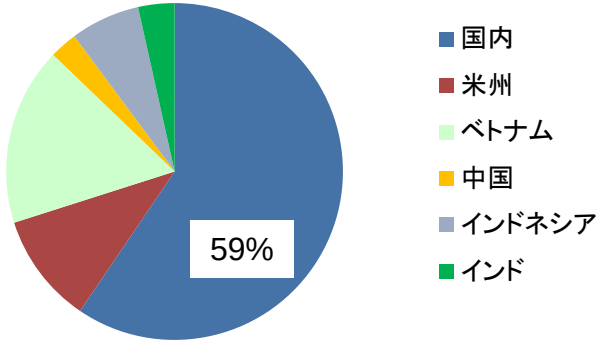
販売数量(2014年度)



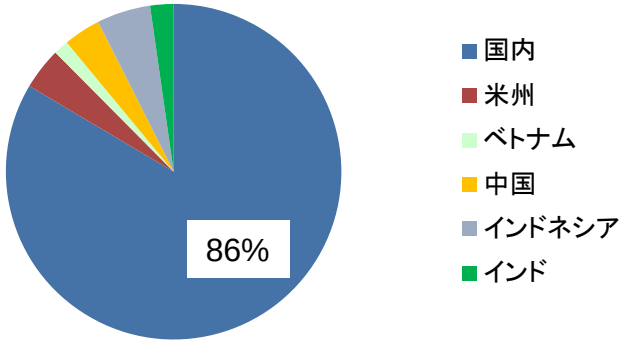
売上高(2011年度)



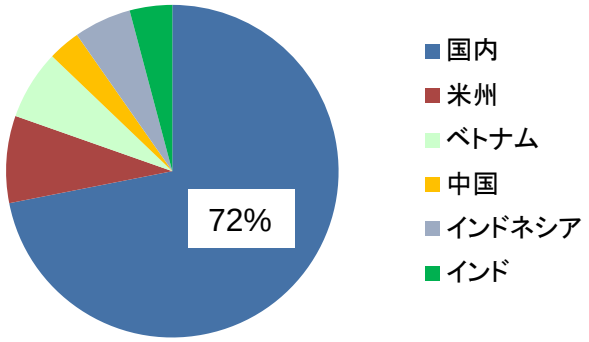
売上高(2014年度)



営業利益(2011年度)



営業利益(2014年度)



Ⅳ　第3次中期経営計画の課題と主要施策

Ⅳ-1 主要課題

1. 国内事業の更なる効率化推進

2. 高成長が期待できるアジア地域への投資の集中
   海外生産シフトが本格化する自動車分野の強化
   エネルギー関連製品の生産開始により
   海外売上の拡大と収益力の強化

3. 海外で活躍できる人材の早期育成及び
   丸一グループのグローバル化

4. 株主重視の資本政策の継続

Ⅳ-2 主要施策（国内）

1.<u>国内事業の更なる効率化推進</u>	
①国内生産体制の再構築	①東京工場の東京第2工場への集約 ②国内余剰設備の海外への移設 ③設備・人員・人材の適正な配置
②国内営業体制の強化	①ｸﾞﾙｰﾌﾟ販売力の強化 ②震災復興需要への積極的取組 特品事業部：仙台特品課開設(12年4月) 丸一鋼販：岩手県北上営業所開設(12年8月) 関東地区でのｺﾗﾑ在庫、切断開先加工、販売強化
③新規分野の展開	①ｽﾃﾝﾚｽ鋼管分野への参入(東京第2工場のｽﾃﾝﾚｽ鋼管ﾗｲﾝをﾏｻﾞｰﾗｲﾝとして海外事業を支援) ②太陽光発電への取り組み ﾒｶﾞｿｰﾗｰ発電事業化検討(詫間工場)及び架台加工・工事への参画 ③東洋特殊鋼業を通じた異型管分野への進出
④省ｴﾈ、CO_2排出量削減、災害に強い体制の構築	①節電、CO_2削減への積極的対応、液状化・津波対策

Ⅳ-3　東京第2工場/ステンレス造管ライン、アルファメタル社

①東京第2工場

ステンレス造管ライン(2011年4月完成)

ステンレス鋼管のマザーラインとして
海外事業を支援



②アルファメタル社/自動車部品加工

設　　立	：2002年9月1日
所 在 地	：福岡県宮若市稲光850番地
事業内容	：自動車部品・太陽光発電架台等製作・販売
資 本 金	：3億円
従 業 員	：141名
敷地面積	：32,788.13m^2
建物面積	：7,590m^2



Ⅳ-4　主要施策(海外)

2.高成長が期待できるアジア地域への投資の集中
海外生産シフトが本格化する自動車分野の強化
エネルギー関連製品の生産開始により
海外売上の拡大と収益力の強化

重点地域と用途　　(各拠点全販売数量ﾍﾞｰｽ)

	2011年度						
	日本	米州	SUNSCO	MMP	ISTW	KUMA	合計
建築農業他	86%	99%	92%	22%	20%	0%	81%
自動車・二輪	14%	1%	2%	77%	80%	100%	18%
エネルギー	0%	0%	6%	0%	0%	0%	1%



	2014年度						
	日本	米州	SUNSCO	MMP	ISTW	KUMA	合計
建築農業他	86%	76%	81%	11%	17%	0%	75%
自動車・二輪	14%	8%	6%	89%	83%	100%	20%
エネルギー	0%	16%	13%	0%	0%	0%	5%

Ⅳ−5 ベトナム：SUNSCO鋼管、鋼板事業の大幅な拡大

①16ｲﾝﾁﾐﾙによるAPIﾗｲﾝﾊﾟｲﾌﾟ事業の本格的展開、ﾍﾞﾄﾅﾑ国内の建材需要の補足とシェア拡大

②第2CGL/CCLの立上げ成功

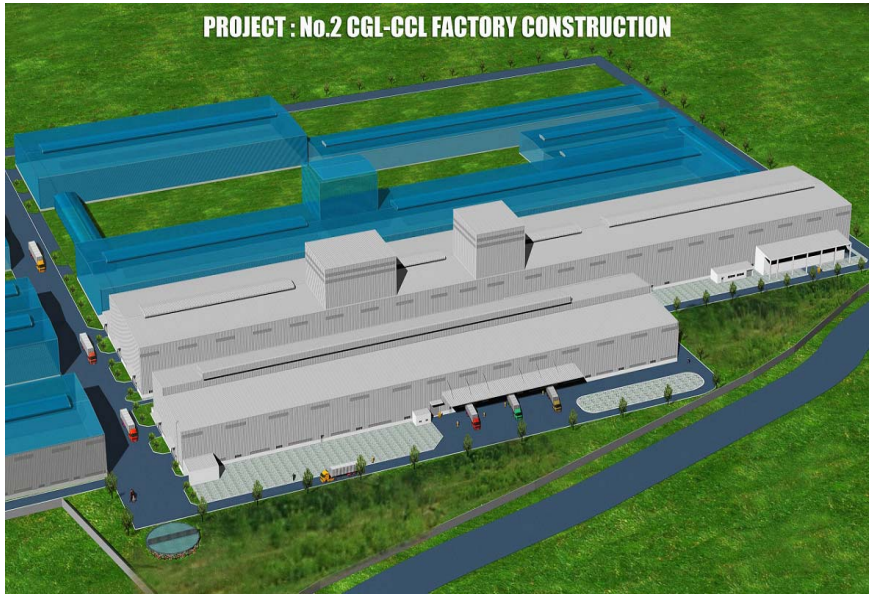
③安定操業による設備稼働率の向上及び生産量の拡大

④JIS取得による日系企業向け鋼管・鋼板製品の生産販売拠点としての役割

⑤ﾊﾉｲの二輪車向け業務の本格化及び排気管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼管の現地生産開始

Ⅳ-6 SUNSCO社の第2CGL/CCLの概要

- 設備内容　　：第2連続溶融亜鉛メッキライン（第2CGL ）
  板巾 MAX4’ 板厚 0．3～3．2mm、能力 約2万トン／月
  ：第2カラー鋼板ライン（第2CCL）
  板巾 MAX4’ 板厚 0．2～1．2mm、能力 約8千トン／月
- 総工費　　：US100百万ドル
- 資金調達　：借入金 US80百万ドル、自己資金 US20百万ドル
- 完成時期　：2013年4月（予定）



第2CGL/CCL完成予想図



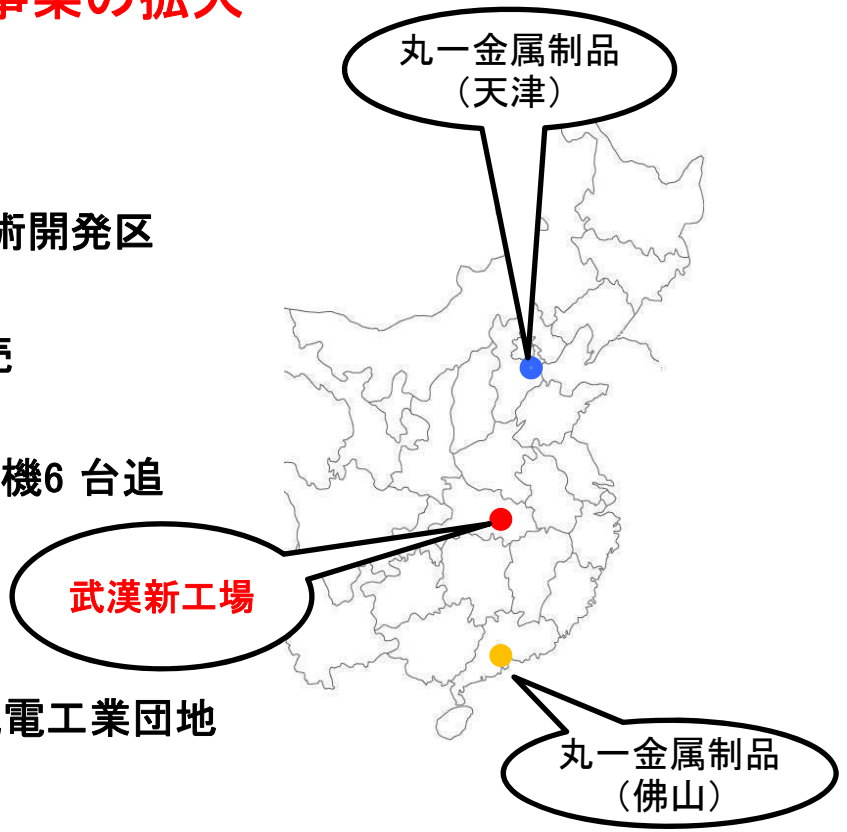
第2CGL/CCL工事現場(2012/3)

Ⅳ-7　中国：MMP社の事業拡大

①日系自動車メーカーの生産拡大への対応
②ｱﾙﾌｧﾒﾀﾙ社との協働による部品加工事業の拡大

【MMP天津社の概要】

名　　称：　丸一金属制品(天津)有限公司
所　在　地：　中華人民共和国天津市天津経済技術開発区
設　　立：　2009年11 月
事業内容：　二輪車・四輪車向け鋼管の製造・販売
設備概要：　造管機1 台、切断機2 台ほか
※第 2 期工事で造管機1 台、スリッター1 台、切断機6 台追加予定



【武漢新工場の概要】

所　在　地　：中華人民共和国湖北省武漢市華頂机電工業団地
敷地面積　　：約5,500㎡
工場完成　　：2012年3月
設備概要　　：切断機4台、面取機1台
投資金額　　：27,000,000RMB（約330百万円）

Ⅳ-8 米州地区での主要施策

1）Leavitt:自動車、APIﾗｲﾝﾊﾟｲﾌﾟ事業の展開

建築用鋼管中心から、自動車用鋼管及びｼｪｰﾙｶﾞｽ開発に注目したAPIﾗｲﾝﾊﾟｲﾌﾟ分野への進出による、経営基盤の強化と収益力の強化

2）MAC:設備更新、西海岸でのｼｪｱ拡大

3）ﾒｷｼｺ/Maruichimex：ﾒｷｼｺでの自動車向け鋼管工場の立ち上げ

Ⅳ-9 Leavitt/シカゴ工場　拡充計画

・2011年1月　W80（12インチ）ミルの改造（US$12百万）
（クイックロール交換システムの導入）
ロール交換時間の短縮　6時間→3時間

・2012年1月　W50（5インチ）ミル更新（US$15百万）

・2012年2月　2インチミル改造（US$3百万）

・2012年10月　W80ミル改造予定（US$15百万）
約5，000トン／月の余剰能力で、ラインパイプを製造可能なラインに改造。
米国北東部のシェールガス開発でマーケット拡大を見込む
・2013年2月

・2013年2月　0．5インチミル導入予定(US$3百万)



W50　5インチミル



2インチミル

Ⅳ-10 メキシコでの自動車向け事業の立上げ

1．Maruichimex S.A de C.V.社の概要

①場所：メキシコ/Aguascalientes州San Francisco工業団地

①設立：2012年1月

②資本金：US$10百万相当

③株主：MAC(60%)、MKK USA(20%)、伊藤忠丸紅鉄鋼(10%)、豊田通商(10%)

④工場敷地面積：30,000㎡、工場面積：6,000㎡

⑤設備：造管機1台、切断機4台(第1期)

⑥完成予定：2012年末



工場建設予定地

Maruichimex所在地



Ⅳ−11 ｲﾝﾄﾞ・ｲﾝﾄﾞﾈｼｱでの施策

1）インド：Chennai工場の立ち上げと
自動車向け普通鋼鋼管事業の開始

①自動車向けステンレス鋼管での圧倒的
シェアの維持

②日系自動車メーカー向け普通鋼鋼管
製造による事業分野の拡大



2）インドネシア：自動車向け鋼管事業の拡大

①日系自動車メーカーの進出本格化への対応
②鋼管現地調達ニーズへの積極的対応

Ⅳ-12 日系自動車メーカーの海外進出シフトに対応した新たな展開の検討

①中国・インドネシア・インドでの体制拡充と米国での自動車向け生産の開始、メキシコへの進出

②アルファメタル社の部品加工技術の海外事業での活用

③国内外一体となった営業体制
海外進出情報の早期把握と海外現地法人との協働による海外取引の獲得

④自動車向けステンレス鋼管事業の新規展開

⑤鋼管事業での“Maruichi”ブランドの活用：Leavitt/SUNSCOの社名に“Maruichi”を追加

Ⅳ-13 その他海外施策

1)海外現地法人の管理強化

①海外現地法人の管理システムの早期完成
(SUNSCO、KUMA)

②KUMA、Maruichimex社の連結子会社化

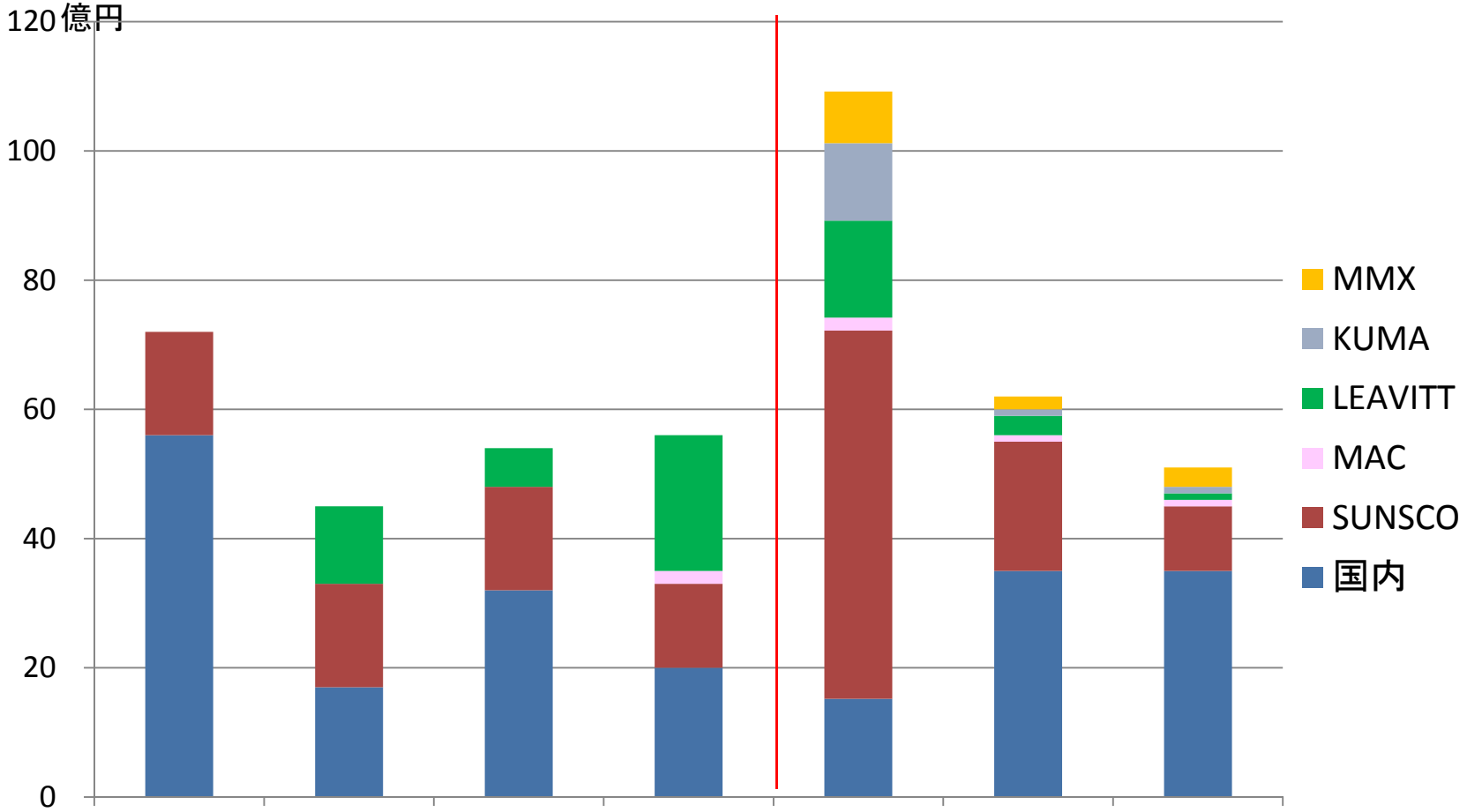
③海外現地法人からの配当・ロイヤリティー支払による
本社への収益還元

2)東洋特殊鋼業の海外事業強化

中国事業の支援・強化及び他海外での展開検討

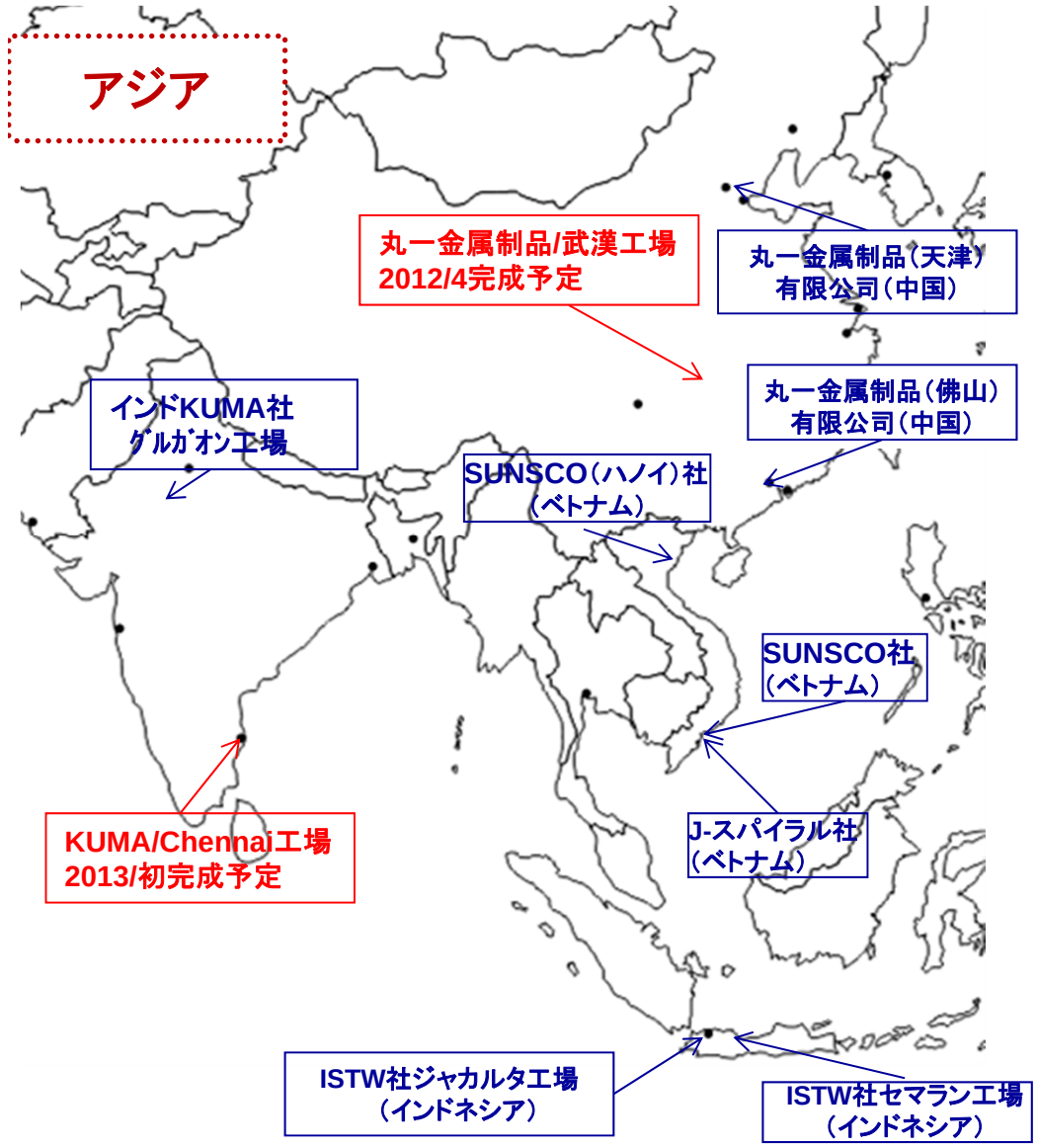
3)オーストラリア/ATM社とのアライアンス強化

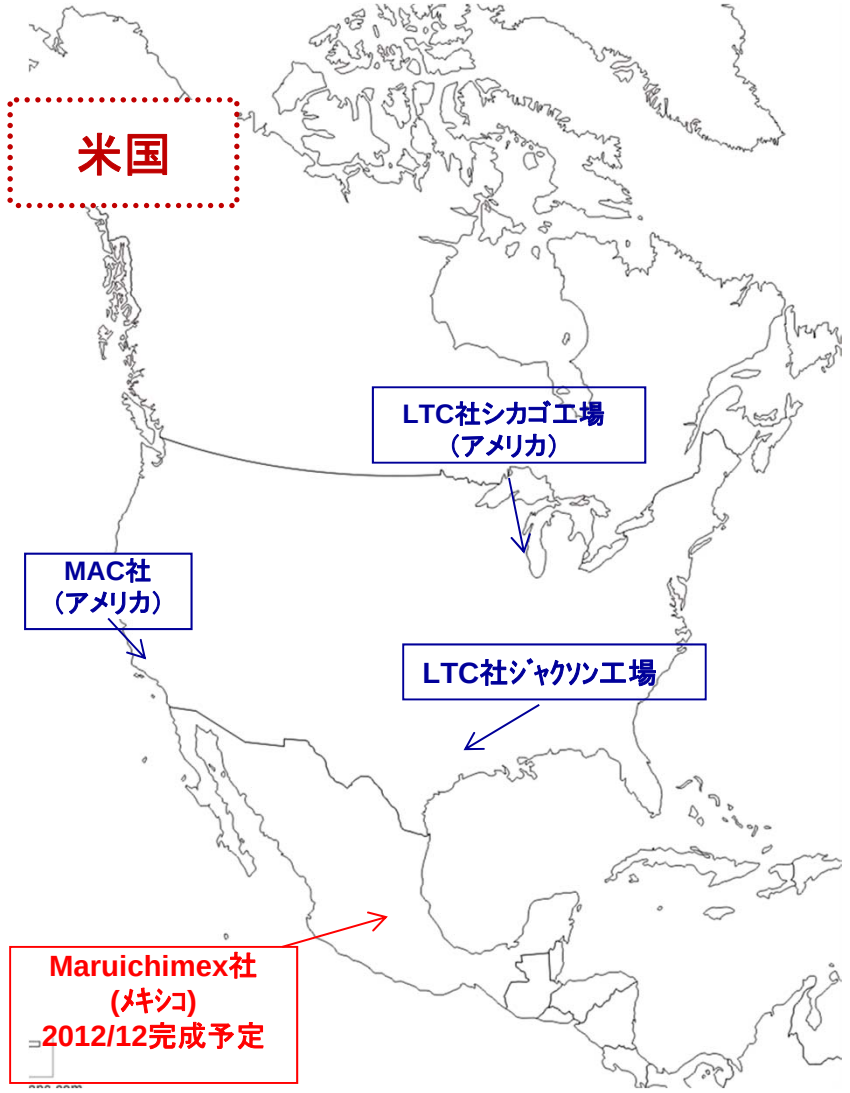
Ⅳ-14 設備投資計画



	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
海外投資額	16	28	22	36	94	27	16
国内投資額	56	17	32	20	15	35	35
合計	72	45	54	56	109	62	51

Ⅳ-15　海外生産拠点


アジア
丸一金属制品/武漢工場
2012/4完成予定
丸一金属制品（天津）
有限公司（中国）
丸一金属制品（佛山）
有限公司（中国）
インドKUMA社
ｸﾞﾙｶﾞｵﾝ工場
SUNSCO（ハノイ）社
（ベトナム）
SUNSCO社
（ベトナム）
J-スパイラル社
（ベトナム）
KUMA/Chennai工場
2013/初完成予定
ISTW社ジャカルタ工場
（インドネシア）
ISTW社セマラン工場
（インドネシア）


米国
LTC社シカゴ工場
（アメリカ）
MAC社
（アメリカ）
LTC社ｼﾞｬｸｿﾝ工場
Maruichimex社
(ﾒｷｼｺ)
2012/12完成予定

Ⅳ-16 その他主要施策

3.海外人材の早期育成(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化の基礎づくり)

1)本格化する海外展開に対応した、

①若手人材の積極的海外派遣。語学研修やﾄﾚｰﾆｰの海外派遣

②「海外で活躍できる」人材の育成

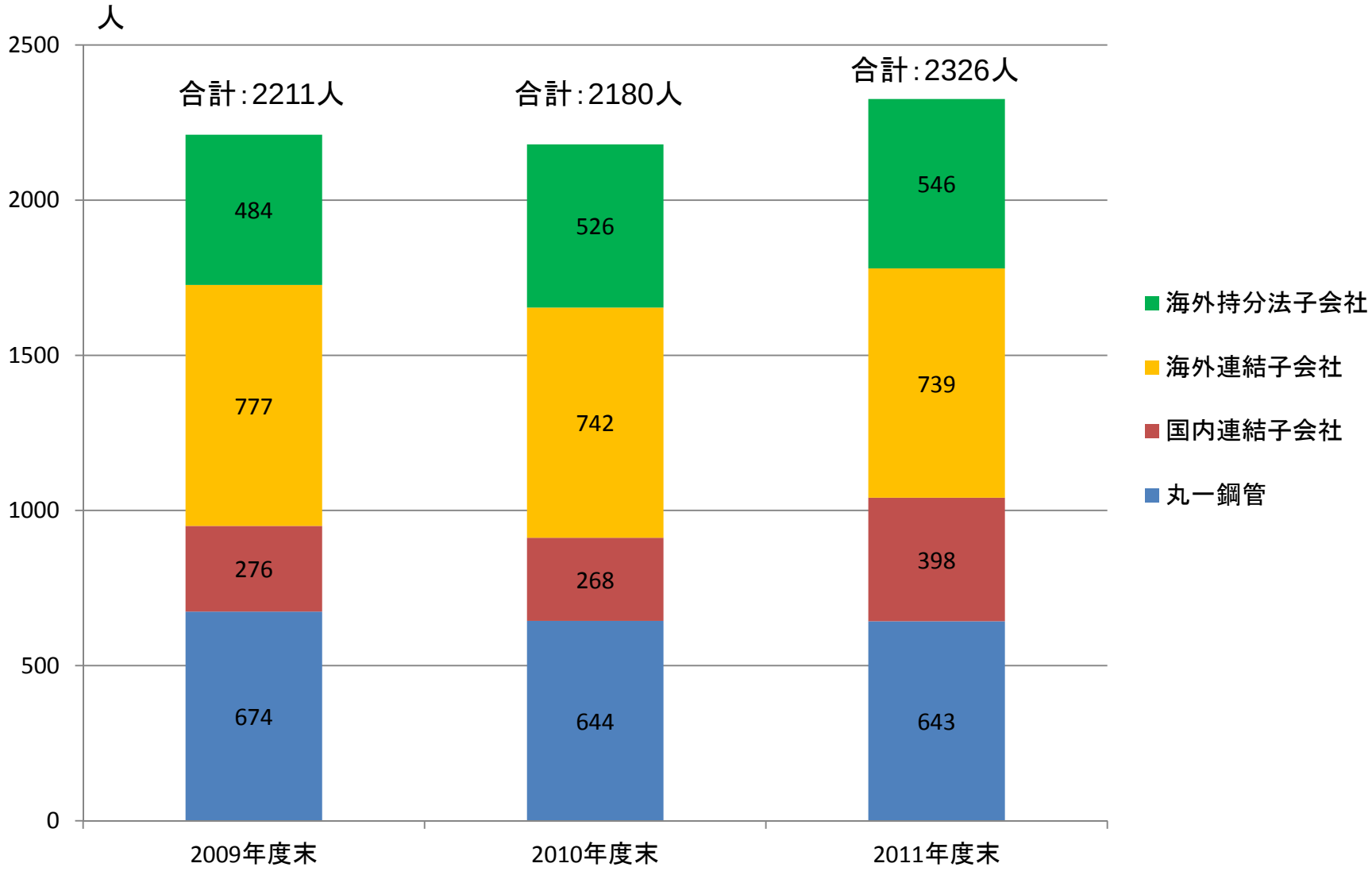
2)現地人材の早期育成

①現地人材の早期育成、登用、技術移転の促進

4.株主重視の資本政策の継続

①高い株主還元率の維持

Ⅳ-17 丸一グループ人員構成



丸一鋼管株式会社

注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。